

Title	Some fecundity symbols in ancient China, by Bernhard Karlgren, Stockholm 1930 (reprinted from the Bulletin of the Museum of Far Eastern Antiquities, No.2)
Sub Title	カルルグレン「古代支那に於ける生産力の象徴」
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.1 (1931. 3) ,p.145- 146
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る。(C)の部にあることは邦人には便利であるかも知れないが(F)にあるべきである。Marco Poloは(M)の部にあつて(D)の部に見當らない。之も出して置くのが親切である。レクラム叢書の如き大部の者は編纂者を相當に惱ませた事ではあらうが、之も古典については譯者の名前をも並記して置いて貰ひたかつた。(さうしてそれ／＼の分類項目にも重記してほしいものである)といふのは、例へば、その七二六號 Die Germania des C. Tacitusの如きは、同一番號であり乍ら大戰前に於けるは Dr. Max Oberbreyerの譯なるも戦後のものは Dr. C. Woyteの譯を収めてあるからである。その他最も困難とする分類についても問題があるかも知れない。

是は要するに、圖書館に眞の圖書館學を修めた専門家が居ない事に基因するであらう。云ふ迄もなく圖書館が大學に於ける最も重要な機關の一であつて見れば、之が専門家を養成することも必要であらうと思はれる。それは兎に角、數次人を替へ歲月を費やして成れる本目錄が編纂者諸君の多大の勞苦の賜であることは、至便なる本書を手にして之を利用するものゝ常に感謝する所であらう。

本書の殘部は(上製七圓假製四圓)同圖書館に於て實費を以て頒布せられるのであるから、之を利用せんとする塾外の諸氏に報せんがために後れ乍らこゝに紹介することとした。(間崎万里)

Political Britain; parties, politics & politicians, edited by M. Farbman, (London.)

ヨーロッパの政治的變局を窺ふのに、最も便利で評判のよい年鑑 Europa の出版社から發兌せる Parchment Guides の一つである表題の書は、十六折本一九六頁二志半の廉價なる小冊子であつて、同年鑑英國の部の拔萃摘要とも見るべきものである。本書には現在と將來のブリテン、憲法、法律と司法、議會史(一九一八—一九二九)、現政府閣員、前内閣首相表(一九〇二年以降)、主要官員錄、選舉要略、一九二九年五月總選舉の解剖(ラスキー)、選舉法改正、議會の構成、下院議員表、上院要略、保守及び統一黨、自由黨、労働黨、政治新聞等の沿革及び政治家の人名錄が掲載せられてゐる。本書發行後ランカスター公領尙書オスワルド・モズレの辭職と之に伴ふ内閣の一部改造はあつたけれども、簡易に英國の政治を知るのには今以て最新の部に屬する。好指針である。(間崎万里)

Some fecundity syndols in ancient China, by Bernhard Karlgren, Stockholm 1930 (reprinted from the Bulletin of the Museum of Far Eastern Antiquities, No. 2) カルグレン「古代支那に於ける生産力の象徴」

音韻學上新しき研究法を支那學に輸入し、同方面の研究を一新したるカルルグレン氏は最近更に字學の方面にも考古學的民俗學的方法を用ひて一生面を開拓せんとする。本論文はその一端を語るものである。祖の文字を構成する且が説文の云ふ如く音をあらなすものならず、またけして犠牲の肉などを置く臺の意に非ず、古形生殖器なりとし、伯、魄の白も且と同様ファリックの文字要素なりと云ひ、更に宗廟に安置せられし主は本來且であつたことを論證し、古代人は宗廟に子孫繁榮を祈りしことを指摘し、繁殖と肥沃とを同一視したる彼等は祖廟と社稷とを相並んで崇拜せしことを述べ、皇天に對する后土は女性なるも土の神としての社后土は男性なりとし社を祭るに柱を用ひし例あることを示し、社の柱と宗廟の位牌を同じく主といふ文字で示せしことを説きて共にファリックのシンボルなることを推測し、その證として社の祭を宜と云ひしこと燕子に燕の祖あるは齊の社稷、宋の桑林あるが如しといふ文句に見ゆるごとく祖が社と同一視せられしこと、社の文字に於て土が陽物を表してをることなど列擧してをる。ついでかゝるファリックの遺物とおもはしき石製品河南黃河の北岸で支那人により發見されアンダーソンも仰留で圓錐形の粘土製の類似品を發見したることを述べ、是等が且にあらざるかを疑ひ、將來の發見を期待してをる。更に琮といふ玉が且の石の覆なるべしといふ説を提起し、第二節には具に關する民俗を記し、之が女陰に似たる點より繁殖豐饒の呪力を持つと信ぜられしことを述べ第三節には青銅器の上に記したる繪文字は、最初豐饒をもたらさんとする *votive* (祈誓的) の意味ありたりとす。しかしてかゝ

る試みは既に甘肅土器の上にも貝、日輪、電光等の農饒の表徴を畫く風習によつてその萌芽が示されてをるをなし、ひろくかゝる習俗が古代に流布し人類の心理東西歸を一にせることを論じてをる。

カ氏の論證は、東西の文化を比較し、アンダーソン氏の發見物其他最新資料を使用し、かつ研究方法に民俗學の見解をとりいれ、新機軸を開ける好論文である。一九二八年ヘーグの言語學會議で同氏に面謁した折、氏は只今字學の研究中であるといひ、高田忠周氏の古籀篇を讚美してゐられてゐた。その名著 *Analytic dictionary of Chinese* 中には説文解字によつて文字の古形の説明をなしパリオ氏に殷虛文字を利用せざりしことを指摘せられてゐたが今や殷虛文字はもとより殷周の金文、甘肅の土器模様まで利用されて新境地を開拓せられた氏の精進には感嘆に堪えぬ。青銅器の銘の *votive* の意味については本誌九卷一號に既に西川君の同意見が提出されてをり、「祖」の生殖器の形なることも邦人中に既に論ぜるものがをる。たゞ日本語が國際語でないのかゝる場合「第一」の榮譽が外人に奪はれてしまふのは仕方がない。カ氏の議論はまだ、將來の研究により補足せらるべき點がある。たゞへば祖先を祭るに必要であつた壇のことも論じていたゞきたかつた。自分分は壇の形がファリックをなし、且の文字もこれと關係あるとおもふ。壇の上に犠牲を置いたので、且は薦なりといふ説さ且はファリックシンボルなりといふ説さは兩者相調和することが出來やうと考へる。終にのぞんで著者が字學の方面に將來の活躍を期待し、粗末なる予の紹介の筆をおく。(松本信廣)